

禁煙を阻む2種類の依存



© 厚生労働科学・中村 2002

禁煙を阻む2種類の依存

- タバコを吸う人は、2種類の依存に陥っている。
- 一つは、タバコ煙に含まれているニコチンという依存性薬物による依存である。
- もう一つは、心理・行動的依存で、タバコを吸うことが日常生活の中に組み込まれ、習慣化した状態である。
- この2種類の依存状態が禁煙を困難にしている。禁煙サポートを行う場合には、それぞれの喫煙者について、これらの依存状態の程度を評価し、その状態に合ったサポートを行うことが必要である。

喫煙習慣の本質はニコチン依存症

アメリカ公衆衛生局長官の「ニコチン依存」に関する報告書の結論 (1988年)

- 1) 紙巻きタバコやその他のタバコは、依存性がある
- 2) ニコチンは、依存の原因となるタバコ煙中の薬物である
- 3) タバコ依存を決定する薬理学的および行動科学的なプロセスは、ヘロインやコカインの場合と同様である

© 厚生労働科学・中村 2002

喫煙習慣の本質はニコチン依存症

- ニコチンの依存性については、これまで身体的依存の有無について議論がなされてきた。
- しかし、1988年に出版されたアメリカ公衆衛生局長官報告では、これまでの調査研究をレビューして、タバコに含まれるニコチンが麻薬やアルコールと同様の依存性薬物であると結論づけている。
- つまり、喫煙習慣の本質はニコチン依存症である。
- ニコチン依存症については国際的に広く認識されており、WHOの国際疾病分類第10版(ICD-10)やアメリカ精神医学会による「精神疾患の分類と診断の手引き、第4版」(DSM-IV)において、診断基準が示されている。
- すなわち、喫煙は治療の対象となる薬物依存症という病気であり、保健医療従事者がその治療を行う必要がある。

注) 日本においても2006年4月から「ニコチン依存症管理料」が新設され、ニコチン依存症に対する禁煙治療に対して保険適用がされることになった。